

一級河川庄内川水系
堀川圏域河川整備計画
概要版



平成22年10月13日

名古屋市



堀川圏域河川整備計画の概要

1. 基 本 理 念

- 〇水害から市民を守る安全な川づくり
 - 〇多様な魚や水生生物が生息し、都心の中で癒しの空間となる川づくり
 - 〇周辺環境と一体で、都市軸を形成する川づくり
- を市民とともに目指します

このような理念の下、これから進める河川整備について「一級河川庄内川水系堀川圏域河川整備計画」を定めました。本計画の対象期間は、今後概ね 30 年間とします。

堀川圏域（堀川流域と新堀川流域）では、関係機関や地域住民のみなさまと連携して、治水、利水、環境に関わる施策を総合的に展開していきます。

2. 河 川 の 現 状 と 課 題

（1）治水の現状と課題

現 状

堀川では順次河道整備中であり、新堀川では河道整備が概ね完了しています。
しかし、以下のような課題が残るところがあります。

川沿いに多くの家屋（ビル）が隣接しており、河道拡幅が困難です

大雨で堀川と新堀川の水位が高くなると、下水道の排水能力が低下し、浸水するところがあります



堀川では、護岸が老朽化しており、対策が必要です

地下街や地下鉄があるため、浸水を防ぐ必要があります

課 題

堀 川 では洪水を十分に流すことができないため、護岸を整備して川を掘り下げ、水を安全に流す必要があります。

新堀川 ではこれ以上の洪水を流せないため、上流で雨水をできるだけ貯め、川に出てくる水を減らす必要があります。

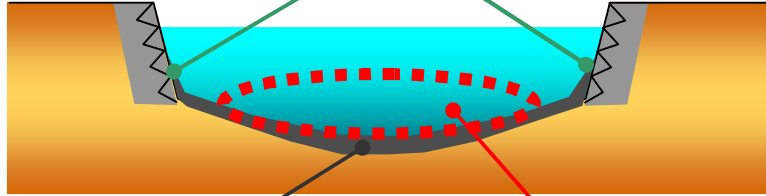
(2) 自然環境の現状と課題

現 状

ヘドロの臭いがします

水際に植物が少なく、
生物がすみにくいです

ゴミが浮いています



ヘドロが堆積し、川底が
黒くなっています

川の底の酸素が少なく、
生物がすみにくいです

課 題

- ・ 生物の生息環境の改善
- ・ ヘドロの除去
- ・ 川の流量の確保
- ・ ゴミの減量

を推進し、水質改善と生物の生息・生育環境と調和した整備に努める必要があります。

(3) 沿川利用の現状と課題

現 状

- ・ 親水性に配慮した親水護岸や遊歩道などの整備（憩いの場）
- ・ 納屋橋地区では、河川敷地を活用したオープンカフェや、市民団体等との協働によるイベントの実施など（にぎわいの場）
- ・ 上流区間（猿投橋より上流）では様々な自然観察会として利用（自然とのふれあいの場）
- ・ 観光船が不定期ながら就航（観光資源）



イベントの実施



オープンカフェ

課 題

憩いの場、にぎわいの場、自然とのふれあいの場など、市民からの高い期待に応え、さらに沿川利用が促進される河川整備に努めるとともに、市民との協働による利用の促進に取り組む必要があります。

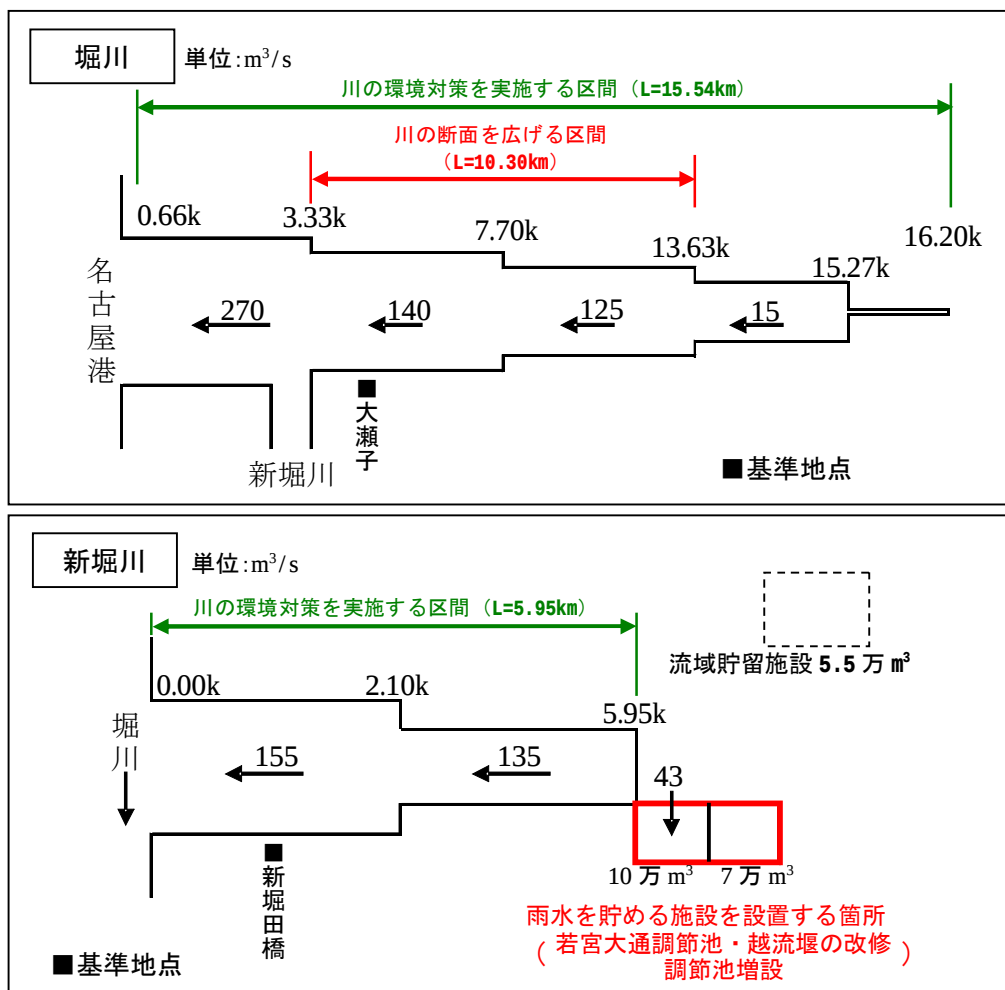
3. 河川整備計画の目標

(1) 洪水による災害の発生防止・軽減に関する目標

概ね10年に1回程度発生することが予想される降雨（1時間雨量63mm）による洪水を安全に流下させます。

目標を超える規模の降雨に対して

- ・雨量や河川水位等の防災情報を地域住民へ提供する
 - ・災害時のみならず平常時から浸水実績などの情報提供を実施する
- などにより、災害の軽減を図ります。



(2) 流水の正常な機能の維持に関する目標（平常時の流量に関する目標）

- ・猿投橋（河口から 13.63km）より上流においては、維持流量の確保に努めます。（概ね $0.3\text{m}^3/\text{s}$ ）
- ・猿投橋より下流の感潮区域においては、可能な限り流量の確保に努めます。

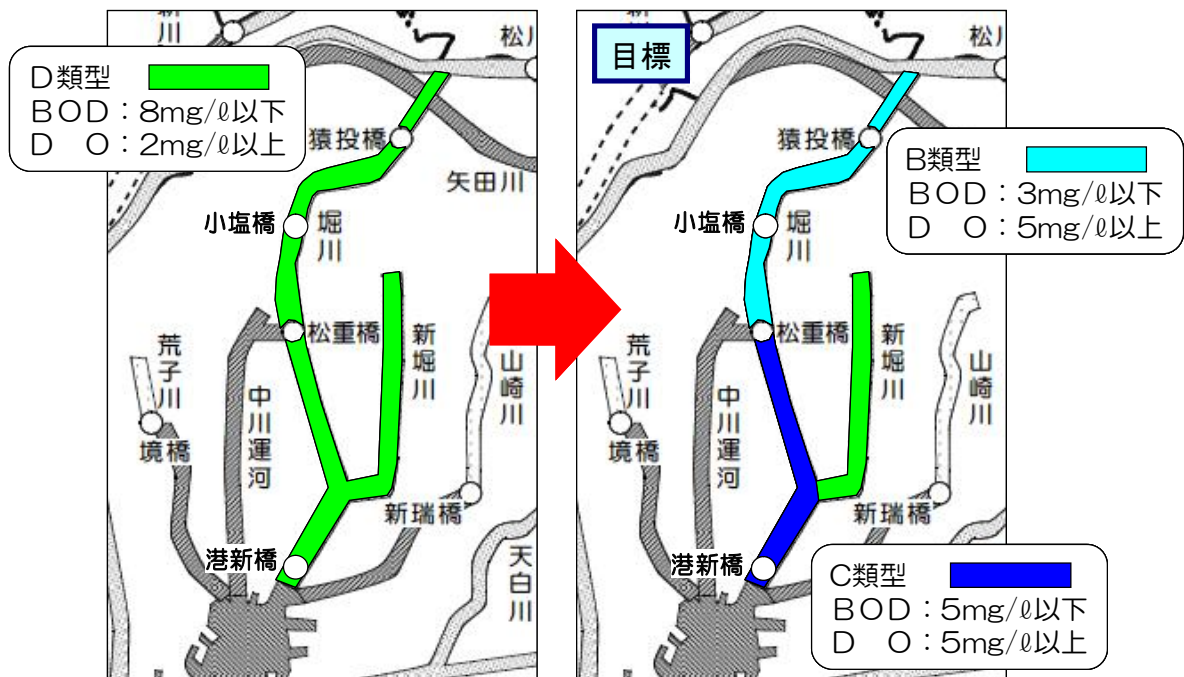


(3) 河川環境の整備と保全に関する目標

人と水生生物が共生できる望ましい河川環境の創出を図り、関係機関や地域住民と連携し、さらなる河川空間の利用促進に努めます。

水質の改善

- 健全な水循環の構築を推進すべく、新たな水量の確保に努めます。
- 合流式下水道の改善や、水処理センターの処理の高度化などを進めます。
 - 中下流部（調査地点：港新橋）：D 類型 → C 類型並みを目指します。
 - 上中流部（調査地点：小塩橋）：D 類型 → B 類型並みを目指します。
 - 川底を掘り、ヘドロの除去を行います。



動植物の良好な生息・生育環境の保全・再生

- 水辺植生の保全・再生を取組みます。

川と人との豊かなふれあい活動の場の維持・形成

- 橋詰などの公共用地を有効利用した親水広場の整備など、地域の人々が集う空間を創出するよう努めます。

良好な景観の維持・形成

- 都市景観など周辺環境と水辺空間との調和に努めます。
 - 歴史的遺産の趣を活かした整備に努めます。

市民との協働

- 市民と行政の役割分担を考え、より活発な市民との協働を取組みます。

※ 類型とは、生活環境の保全に関する環境基準です。

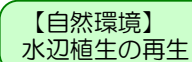
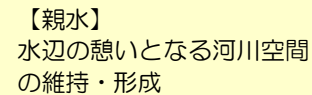
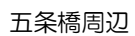
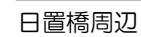
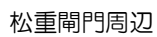
B 類型：BOD 3mg/l以下、C 類型：BOD 5mg/l以下、D 類型：BOD 8mg/l以下

(BOD は、川のきれいさをあらわす指標であり、値が小さいほどきれいな川です)

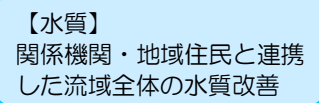
※ ● は堀川と新堀川における目標、○ は堀川における目標です。

（１）河川工事の内容

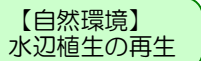
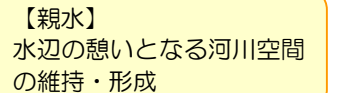
■標準整備イメージ



■標準整備イメージ



■整備イメージ



河川名	整備延長 (km)	流域面積 (km ²)
堀 川	15.54	52.85
新堀川	5.95	22.77

(2) 河川の維持

■河川の維持

- ・河道を適切に維持するために、河川を定期的に巡視し、治水上の支障となる堆積土砂の除去などの適切な対策を実施します。
- ・護岸などの河川管理施設を維持、河川の適正な利用および河川環境を保全するために、日常点検や出水後の河川巡視を行い、異常が確認された場合は、適切な対策を実施します。
- ・関係機関や市民団体と連携し、河川の水量や水質の監視、生物の生息・生育調査などを実施し、その結果を河川環境対策に活用することで、水環境の向上に努めます。
- ・各種イベント、堀川ギャラリー、ホームページなどを活用し、積極的に情報発信することによって地域住民と情報の共有化を図ります。

■河川情報の提供

- ・洪水などによる被害の軽減を図るため、降雨量などの防災情報を迅速かつ的確に関係機関へ提供し、水防活動を支援します。
- ・整備水準を上回る洪水（超過洪水）に対しては、浸水実績図を公表するなど地域住民の防災意識の向上を図ります。
- ・災害の発生が予想される場合は、地域住民が余裕を持って避難できるようにインターネットなどを通じて河川情報を提供します。
- ・親水施設などについては、短時間・集中的な降雨時の水位上昇について注意喚起に努めます。

4. 流域委員会の開催状況

平成19年4月1日に一級河川（指定区間）であった堀川と新堀川の管理権限が愛知県から名古屋市へ移管され、以降は名古屋市が流域委員会を開催しました。

開催回（管理者）	主 な 議 題	年 月 日
第1回（愛知県）	・治水の現状と課題	H16. 8.27
第2回（愛知県）	・環境（水環境・まちづくり）の現状と課題	H17. 1.31
第3回（愛知県）	・環境の現状・課題及び方向性①	H18. 8.28
第1回（名古屋市）	・河川整備計画の治水対策について ・環境の現状・課題及び方向性②	H19.10.23
第2回（名古屋市）	・治水と環境の方向性	H20. 3.25
第3回（名古屋市）	・治水整備方針、環境整備方針	H20. 8.21
第4回（名古屋市）	・河川整備計画（素案）の提示	H20.10.30
第5回（名古屋市）	・河川整備計画（原案）の提示	H21. 6.19

●企画・発行 名古屋市緑政土木局河川部河川計画課・堀川総合整備室
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
ホームページ <http://www.city.nagoya.jp/>

●発行年月 平成22年10月

この冊子は、古紙パルプ含む再生紙を使用しています。